

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401947		
法人名	社会福祉法人 静雲会		
事業所名	グループホーム静園		
所在地	長崎県南島原市口之津町乙3476		
自己評価作成日	令和4年8月25日	評価結果市町村受理日	令和4年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和4年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ環境の中で、入居者が安心してゆつくりと生活できる様な環境の中で支援を行っている。同法人には保育園があるために、子供たちの定期的な慰問や敬老会での交流があり、入居者と一緒に楽しんでいただいている。季節感のあるレクリエーションの企画を行い、花見や餅つき大会、紅葉ドライブなど積極的な活動支援を行っている。スタッフのスキル向上のために独自の勉強会や、資格習得のための支援を事業所として行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームからの眺望がよく、ホーム前面からは橘湾の海岸が広がる風景を眺めることできる。コロナ禍で外出制限が続いているが、入居者の希望に応じて本人の実家を見に行ったり、馴染みの理美容室の利用や、法事への参加など、入居者の友人や知人と交流を継続し、馴染みの関係が途切れないよう取り組んでいる。ホームには看護師を配置して協力医との連絡を密にし、入居者の体調不良時には昼夜を問わず相談できる体制を整えており、入居者・家族の安心へと繋げている。職員の資格取得にはスクーリングに参加できるよう勤務体制を柔軟に変更し、知識や技術の習得を推奨している。ホームでのヒヤリハットを含め事故報告に関しても運営推進会議に図り、ホームの状況を伝えることで運営の透明化を図っている。理念には「笑顔で過ごす」と謳い、職員が入居者に寄り添い、入居者本人の「今できること」を引き出しながら、笑顔で楽しく過ごしてもらえよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 静園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、その方らしく、お一人おひとりを尊重した支援を心掛け、職員間で共有しながら支援に努めている。	ホーム理念「いつまでも、自分らしく、心健やかに、笑顔で過ごす、楽しいホーム」をリビングや事務所に掲示し、職員がいつでも目に留めることができるようにしている。施設長は理念を強制することとはせず、自然と身に着けるよう話し合いながら、入居者の笑顔へと繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	病院や理容室など、今まで通われていた所にお連れし、地域との繋がりを無くさないように努めている。	ホームは町内会に加入し、回覧板を通して地域の情報を得ている。コロナ禍以前は地域の祭りやイベントを入居者が沿道から見学したり、同法人の地元保育園児と交流するなど関わりを持っていた。最近では、神社の神輿が訪れるなど入居者の楽しみに繋げた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資格を持った専門員もいて、勉強会や話し合いを通じて施設内での意識向上には繋がっている。しかしながら地域に向けた活動までには至っていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で、日常支援の取り組みについても外部の方の意見を聞くことによって、職員間の意識向上にも繋がり、サービスの質の向上に活かされている。	運営推進会議の構成は島原地域広域市町村圏組合職員・民生委員・家族・地区代表がメンバーとなり、意見交換を行っている。ホームでのヒヤリハットを含め事故報告に関しても運営推進会議に諮り、ホームの状況を伝えることで運営の透明化を図っている。コロナ禍により書面会議に変更し、ホームでの活動報告を各委員へ郵送し意見を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター等には入居者空き情報なども伝え、相談などある時には密に連絡を取りながら協力体制を築けている。	ホームは行政職員が運営推進会議へ出席した際にホームの活動状況を伝え、必要なアドバイス等を得ている。介護認定更新やコロナ感染予防策等、各種申請や相談事項等は電話や直接窓口に出向き必要な手続等を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、今現在おこなっていない。その都度話し合いの場を設け、勉強会等も行っている。	ホームでは身体拘束廃止に関する職員勉強会を年6回実施する計画で、インターネット媒体等から資料を収集して準備し研鑽している。センサーは使用せず、職員が入居者の動きを察知して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。睡眠薬の服用にも留意し、必要に応じて主治医へ相談し、不必要な服用にならないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア会議等でも、職員間で支援についてストレスをためないように話し合いを行いながら、虐待用心として意識するように心掛けいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	難しい内容までは理解できてはいないが、勉強会等で学ぶ機会もあり、利用者の活用については施設長や管理者が関連機関と話し合う機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、施設長や管理者が十分に説明を行い、わかる範囲であれば職員でも対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時にはコミュニケーションを図り、一か月に一回はお手紙につて情報をお伝えする中で要望などにも応える機会を設け、運営にも反映している。	定期的に入居者の様子の写真を貼付した便りを家族へ送付しており、担当職員のコメントを載せることでコロナ禍で面会できない家族の安心に繋げている。家族には可能な限り利用料を直接ホームへ持参するよう伝えることで入居者と家族との関係継続を支援している。入居者や家族からの要望は生活記録に記入し、職員で共有を図りサービスの向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロア会議の中で、意見を聞く機会を設けている。又個別には、管理者や副管理者が意見などを聞き、施設長と対応を行っている。	全体会議やフロア会議を通じて職員の意見を語り、出された意見や要望等は適宜対応している。施設長は相談しやすい雰囲気づくりに配慮している、管理者は。問題が発生した場合など、その都度職員と話し合いを行い、円滑な解決に努めている。	職員の人材不足が続く中、より良い職場環境を整備するためにも、今年度より強化が求められているハラスメント対策を踏まえ、ハラスメントマニュアルや相談窓口の整備、研修の実施などに取り組み、より職員意見の反映に繋がる環境を整備することが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善や賞与がある。研修会などの参加を勧めている。しかし給与賃金については一般に介護の水準が低いので気持ちが落ちることがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力や、実務経験年数に応じた研修会等に参加させていただいている。また、職員が分かるように掲示板に研修会の案内について貼りだしてある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会など中止が続き交流の機会は減っている。職員間の交流にも至っていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴等を知るために、入居時には何でもシートを利用し、家族にもお尋ねしながら、本人が安心して生活できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が安心でき、利用者を任せられるように話し合いを重ねている。職員間で情報を共有しながら、家族の訪問時にはコミュニケーションを図れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活歴や、生きてこられた人生を大切に考え、本人ができることを見極めながら、ケアプランに添って対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを理解し、お一人おひとりに合わせた支援を考え、共同生活の中で、職員も人生の先輩として学ぶ姿勢を忘れずに支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時のご家族と利用者だけの時間を心掛け、お手紙にて日頃の様子を知らせ、関係が途切れない支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院や理容室など、今まで通われていた所にお連れし、地域との繋がりを無くさないように努めている。	コロナ禍で外出制限が続いているが、入居者の希望に応じて本人の実家を見に行ったり、馴染みの理美容室の利用や、法事への参加など、入居者の友人や知人と交流を継続し、馴染みの関係が途切れないよう取り組んでいる。遠方の家族との電話を取り次いだり、ZOOMでオンラインでの面会ができるよう準備するなど関係継続支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆が集まれるホールに、利用者同士が自然と集まり、ゆっくりとお話をされる機会がある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了すると、ご家族とお会いする機会も殆ど無くなる。施設長はお参り等でご家族とお会いされた内容などを、時々伝えて下さる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりできる部分はしていただき、困難な場合は、本人が負担を感じない程度に声掛け等を行い、会議等でも話し合いを行い検討を行っている。	職員は入居者との日常会話の中で本人の思いや希望を聞き取り、必要に応じてその方が発した言葉をそのまま記録として残し、職員と情報を共有している。入居者の表情や返答の仕方などいつもと異なる場合は観察と傾聴を行い本人の思いの把握に努めている。意向の表出が困難な方には家族にも確認し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人おひとりの情報シートを作成し、職員間で共有しながら、個々の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々様子を観察し、普段と違う場合は職員間で話し合い、常に現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにより評価を行い、担当者を含め、意見交換を行い、ケアプランに反映されている。家族の思いや、医療機関の意見なども反映されている。	ケアプランの内容は家族との面会時や電話にて説明し、同意を得ている。ケアプランは長期で1年、変更が必要な場合は随時見直しを行っている。必要に応じて看護師などの専門職へ意見を求め、入居者、家族の意向を確認し、カンファレンスを通じて職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成できるよう努めている。カンファレンスの記録を職員が共有し、サービス内容の統一を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一枚の記録用紙に工夫されている為、職員間でも反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランに添いながらも、日々の利用者の状態に応じて、柔軟な支援が行われている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しつつ、毎日の生活安全に楽しく生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態に応じて、往診などの対応も行っている。医療機関とは、看護師等が連絡を図りながら支援に努めている。	ホーム近隣の医療機関への受診には職員が同行し支援している。精神科への受診等、遠方の医療機関を受診する場合は家族の協力が必要となる旨を入居時に説明し、同意を得ている。夜間急変時には協力医療機関と連携し、早期に対応できる態勢を整えている。ホームに看護師を配置して協力医との連絡を密にし、入居者の体調不良時には昼夜を問わず相談できる体制を整えており、入居者・家族の安心へと繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その都度報告を行いながら指示を仰ぎ、病院受診等に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的な受診等で病院と連携を図っている。入院時には、医師と相談しながら早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設における重度化や終末期に向けた説明を行い同意を頂いている。現在看取りは行っていない。	入居の際に家族及び入居者へ看取りに関する指針を用いて説明をしている。現状では職員体制等を考慮し、看取り支援ができない旨を家族へ説明し、重度化に伴い医療面で支援が必要となった場合には、医師の判断のものと入院先等へ移行している。今後は、医師との調整等、条件が整えば看取りを行う意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設勉強会等で、緊急時の対応について話し合いを行っている。外部の訓練には参加できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に4回の避難訓練を行っている。火災だけではなく地震などの災害についても避難体制を強化している。地域の自治体に入り、施設として協力体制が構築できるように努めているが、近隣に家がなく、恒例の方が多いため協力を得がたいのが現状である。	前年度は夜間想定訓練の訓練を2回実施した。今年度の訓練は11月と3月に予定し、3月には消防署の立ち合いの訓練を計画している。管理者が元消防団員であり、避難体制の強化を図っている。また、運営推進会議の開催に合わせて避難訓練を実施し、その様子を見学してもらうことで、ホームの体制を伝え災害時の協力を促している。災害時の停電時に備え、発電機を購入した。	避難時に持ち出す入居者情報一覧には医療保険及び介護保険情報、お薬情報を加えることで、避難所等でより円滑な入居者情報の提供に繋がるものと思われる。避難訓練時の記録に関し、写真を加えて残すことで家族にも訓練状況が伝わり、安心感に繋がるものと思われる。更に、避難した際の居室の確認方法に関し、あらかじめ明確にすることが望ましい。また、今後、BCP(業務継続計画)の策定と共に訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩ということを頭に置き、言葉かけを行い、個々の尊厳を大切に考えた対応を行っている。	職員はグループホーム連絡協議会が企画した接遇マナー研修会に参加し、言葉かけや対応方法などコミュニケーション技法の学びとした。不適切な言葉掛けがあった場合は職員同士で注意し合い改善に努めている。職員は入居者の個人情報漏洩に留意し、入職時には守秘義務を遵守する誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が落ち着ける環境を整えながら、自己決定できるような声掛けを心掛けて行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時や食事時間などは、希望に添って行っているとは言い難い。しかし、一人ひとりのペースで希望を汲み取りながらの支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時のみだけでなく、普段より整髪や髭剃りなどの身だしなみ等には気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなどにも役割を持っていただいたり、昔流行っていた音楽を聴きながら、楽しい雰囲気作りに努めている。	ホームには調理担当職員を各ユニットに配置し、手作りの料理を提供している。食事の際は職員も一緒に食卓を囲み、1名は検食、他の職員は入居者の見守りや食事介助を行い支援している。食事は入居者の嚙下状態に応じて、適宜、刻みやトロミにて対応している。誕生日や行事の際には特別食を提供し、入居者の苦手な物は代替食にて対応するなど、食事が楽しみなものとなるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録等に記入しながら、体調管理を心掛け、申し送り等で、職員間で情報を共有し、本人の状態に合わせた支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアを行っている。一人で困難な方は職員が付き添い、介助にて口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせた排泄介助を行っている。オムツ使用の方でも、声掛けを行いながら、トイレ誘導を行い自立に向けた支援に努めている。	各居室ごとにトイレを整備し、排泄を自立している入居者は各自でトイレを利用し、または職員が時間を見て誘導したり声掛けを行ったりすることでトイレでの排泄へと繋げている。状態に応じて夜間のみポータブルトイレを利用する方やオムツを使用する方もおり、その方の状態に応じて使用方法や時間帯、オムツの種類等を検討し、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。排泄失敗時には、居室にて交換し、必要に応じて浴室を使用したり陰部洗浄を行うなど支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的なトイレ誘導を行い、トイレでの排泄介助に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯を利用者に合わせるなど、入浴を楽しむ支援までは行えていないのが現状である。	入浴は週2回を基本として支援している。本人が入浴を拒否する場合は無理強いせず、時間や日にちを随時変更したり個々に沿った言葉かけの方法を変えるなど工夫している。菖蒲湯を準備し季節感を楽しんでもらえるよう支援している。時季により脱衣所には暖房器具を設置するなど温度変化に配慮し、ヒートショックに留意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの睡眠時間や生活リズムの把握に努め、夜間帯に快適に安眠できるような支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬がもたらす副作用などについても理解を深めている。薬の投薬についてはチェック体制を強化している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お菓子やコーヒーなど個々の好みや時間帯で楽しまれ気分転換は出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添えるよう出来る限りの支援に努めている。	コロナ禍で外出を自粛している。天気の良い日にはホーム玄関先のベンチで寛いでもらったり、景色を眺め外気浴を行うなど、入居者の気分転換を図っている。入居者の希望に応じて本人の実家を見に行ったり、馴染みの理美容室の利用できるよう支援するなど感染対策に留意し可能な範囲で支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主に事業所にて管理しているが、家族了解の基に、ご自分で持たれることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人に変わり、毎月のお便りにて、日頃の生活状況を伝えたり、携帯電はを使用してご家族との会話を楽しませている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体を通じて、くつろげる環境に考慮して、時には季節感を感じていただけるような花や物を置くようにしている。	共用空間には保育園児からの絵葉書やレクリエーションの様子を撮影した写真のほか入居者が制作した塗り絵や季節の飾りつけなどがあり、目で楽しむことができる。テーブルの前には対面キッチンがあり、調理をする職員の姿や料理の匂い、音を感じることができ、家庭的な雰囲気がある。不快のない落ち着いた空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いホールにソファや椅子を置き、利用者同士が話しやすい工夫をしたり、畳の部屋でも寝ていただけるような場所も整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス以外は、使い慣れた馴染みの物を使用させていただき、お仏壇や姿見なども置かれている利用者もおられ、本人の居心地の良い空間となっている。	居室には持ち込みが自由で、位牌のほか、家族の写真や友人との写真、書写、家族からの手紙、来訪した保育園児からの贈り物などが飾られ、明るい雰囲気がある。ベットや家具の配置を変更する際は本人や家族とも相談し、安全に居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーであり、手すりや個人用のトイレもあり、快適に安全で自立した生活が送れるように配慮を行っている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 静雲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が見えやすい場所に提示してあり、理念について話し合う機会もあり、職員の共通した指標となっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	病院や理容室など、今まで通われていた所にお連れし、地域との繋がりを無くさないように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	園内では認知症の方の理解するための勉強会等も行っているが、地域に向けた活動までには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見などは、全体会議等で職員間にも伝えられ、サービス向上に活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや、介護事業所とも密に連絡を図りながら、研修会等も計画されるなどの協力関係は築かれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、周知徹底されている。声掛けなどについても職員同士で心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、周知徹底されている。声掛けなどについても職員同士で心掛けている。虐待になっていないか確認に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については研修会に参加している。市町機関と連携を図りながら活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長・管理者がご家族の契約の際には十分説明を行っている。また、ご家族が不安に思うことなどについては各受持ち担当者や副管理者なども対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員を入れ、意見等を聞く機会を設けている。また、利用者に対して各担当者を決め、細かい意見も言いやすい環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロア会議等で職員の意見や要望などを聞く機会を設け、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を設けたり、資格等を目指すものに対しては、施設より研修会への参加を呼びかけ、向上心を持って仕事ができる環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議やフロア会議にて、勉強会を行う機会を設けている。管理者研修や3年以上経つ職員には、実践者研修への参加ができるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会の中止や研修会に参加できないこともあり、交流の機会が減り、質の向上には活かしていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	カンファレンスに利用者も参加していただき、直接本人からも日常の不安や希望を聞く機会を設け、日常の支援等に反映されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階に施設長や管理者が家族関連機関からの情報などを聞き、利用者が望まれる支援や家族の不安等に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用される前に、出来る限り本人とご家族には来園して頂くように努め、直接見て雰囲気などを感じていただいたうえで、話を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜の皮むきや洗濯物たたみなど、利用者の体調に合わせて、共に生活を送るものとして単調な生活にならないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙について、利用者の日頃の様子などを伝え、来園時にはお部屋やホールにて、ゆっくりお話しできるに配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理容室や病院などは、本人が今まで通われていた馴染みの場所や機関にお連れするように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に配慮した席の配置や、一人の方が孤立されないように配慮した声かけ等も行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	運営推進会議メンバーとして現在も協力してくださるなど馴染みの関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一方的なこちらの思考にならないように、利用者のなにげない日常での会話などにも耳を傾け、本人の希望や思いを把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活の記録をまとめてあり、ケアプランの中にも、短期目標が職員に意識できるように配慮されている。また、話し合いの時には、それらを利用しながら話し合いが行われるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りノートなどを活用しながら、利用者の日々の対応に活かしている。また、利用者の急な変化に対しては特記事項などに記載し、職員全員で対応できるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議やカンファレンス等で話し合いを行い、意見など反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の記録を個人で記載をし、食事量なども細かく記録を残しながら、職員間で共有し、日々の介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランのみにとらわれず、利用者の体調に合わせ、本人の意向を聴きながら対応ができるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療機関と連携を図りながら、本人が生きる意欲が持てるように支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が望まれる場合は、医療機関と連携を図りながら速やかに受診できるように支援を行っている。利用者の体調の変化時、受診を行った場合は結果等を必ずご家族にお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態の変化については、バイタル測定などで職員間で共有し、急な変化があれば看護師へ報告し病院受診や往診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関と連携を図りながら、利用者の状態に応じた対応を話し合い、ご家族とも相談しながら早期回復に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期の説明を行い同意を頂いている。利用者の状態に応じてその都度説明を行っている。現在看取りは行っていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設勉強会等で、緊急時の対応について訓練を重ねている。ホームにて消防署立ち合いの講習会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に4回の消防訓練を行い、火災だけでなく地震などの災害についても避難態勢を強化している。地域の自治体に入り、施設として協力体制が構築できるように努めているが、近隣に家がなく、高齢の方が多いため協力は得がたいのが現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者お一人おひとりの人格に配慮した声かけに努めている。利用者同士の言い合いなどになった場合は、職員が間に入り、お互いが気分を損ねないように声掛け等を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を聞き、ケアプランに反映させている。利用者の体調に合わせた声掛けを行いながら、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間やレクリエーションの時間などは、施設の都合に合わせてしまうことがある。利用者の希望に添えているのかと考えると難しい時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事の時などは、女性の方は化粧をしたり身だしなみには気配りをしている。起床時には、髪の毛を整え、寝間着から着替えるなど身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の簡単な皮むきや、配膳を手伝っていたり、利用者が役割を持ちながら、食事を楽しめるように、季節の花を飾るなどの工夫も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録等に記入しながら、体調管理に心掛け、お一人おひとりに合った支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアを行っている。一人で困難な方は職員が付き添い、介助にて口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの状態に合わせた排泄介助を行っている。オムツ使用の方でも声掛けを行いながら、トイレ誘導等を行い自立に向けた支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの状態に応じて、医療機関と連携を図り、看護師と相談しながら、水分量や薬を調整して予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の入る順番などには配慮はしているが、にゆよく時間帯についてはここに応じた対応はできておらず施設の都合に合わせているのが現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や季節に応じた温度調整や、照明の調整、衣類などの配慮をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の利用者に与える影響を職員は十分理解し、誤薬が起こらないようにチェック体制も強化を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	単調な毎日にならないように心掛けながら、利用者の体調に合わせた支援が行えるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じたレクリエーションを企画したり、利用者に応じた外出の機会を設けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況に応じて、家族と相談したうえで、本人がお金を所持している方もおられる。普段は事務所金庫にて預かり、利用者の希望によって買い物等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと言われる場合は、好きな時間に何時でも掛けることが可能である。個人で携帯電話を所有されている利用者もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、レクリエーションの時の写真を掲示しながら季節感を共有し、楽しむように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに畳の場所があり、そこでゆっくりされる利用者もおられる。季節の花を飾り、訪問された方が何時でもゆっくり話せるように椅子なども用意してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にて馴染みの椅子や、家族の写真などを置き、本人が自宅にいた時のような居心地の良い環境になるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が安全に安心して移動できる空間を心掛け、居室が分かるように目の高さにご本人の名前を掲示するなどの工夫も行っている。		